

○平成2年国勢調査の白根市の人口(概数)

※総務庁が後日公表する数値が確定値となります。

# 人口は60年より1,565人増加

人口総数3万5,800人・世帯数8,593戸・一世帯当たり平均4.17人

10月1日、全国一斉に実施された国勢調査による本市の人口と、世帯の概数がまとまりました。人口総数は3万5,800人、世帯数は8,593世帯と、いずれも前回調査(昭和60年)の結果より増えています。この調査には、全市民のご協力をいただきました。大変ありがとうございました。

## 国勢調査

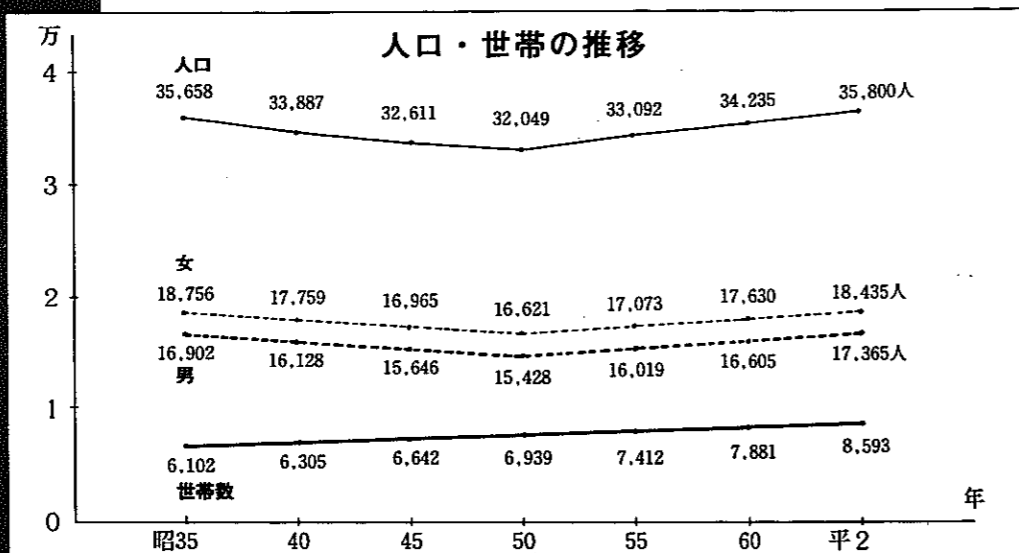
人口総数3万5,800人の男女別内訳は、男子1万7,365人、女子が1万8,435人でした。5年前の前回調査と比較すると、人口総数で1,565人(4.6%)、男子が760人(4.6%)、女子が805人(4.6%)それぞれ増えています。また、世帯数は、712戸(9.0%)増えて8,593戸となっています。

昭和34年の市制施行後の国勢調査人口は、昭和35年の3万5,658人を最高に50年まで調査の度に減少し

ましたが、55年調査から3回連続で増加しています。増加率では50年から55年が3.3%、55年から60年が3.5%、60年から平成2年が4.6%と着実に増加しています。

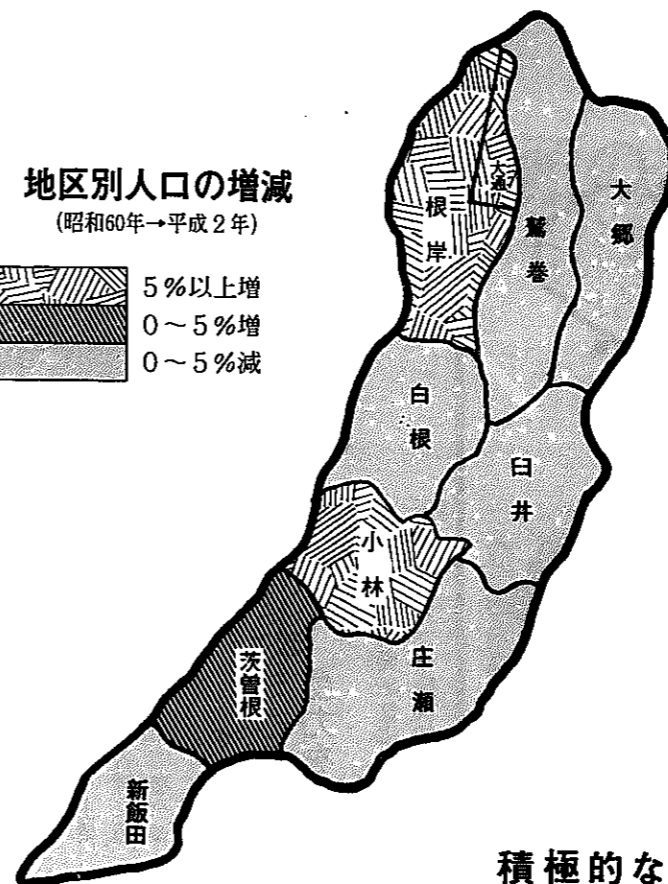
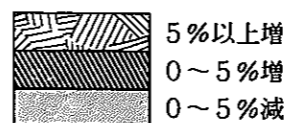
### 人口・世帯数は大通、小林、根岸地区で高い伸び率

今回の調査では、従来の9地区のほかに大通地区を設け、10地区で集計をしています。地区別の人口伸び



### 地区別人口の増減

(昭和60年→平成2年)



### 地区別人口・世帯数

地区	人口			世帯数		
	平成2年	昭和60年	増減率	平成2年	昭和60年	増減率
新飯田	2,059	2,131	△3.4%	461	458	0.7%
茨曾根	2,063	1,985	3.9	413	400	3.3
庄瀬	3,278	3,306	△0.8	684	676	1.2
小林	3,155	2,804	12.5	742	616	20.5
白根	11,391	11,641	△2.1	3,162	3,113	1.6
白井	3,273	3,338	△1.9	697	704	△1.0
大郷	2,245	2,265	△0.9	439	435	0.9
鷺巻	2,737	2,859	△4.3	565	577	△2.1
根岸	3,437	3,096	11.0	789	666	18.5
大通	2,162	810	166.9	641	236	171.6

### 人口伸び率は県下6位 20市の中ではトップ

11月30日に県から発表された国勢調査結果速報によると、白根市は人口伸び率で、県下112市町村中6位となっています。前回調査の伸び率は12位でしたので、さらに人口増加が加速したことになります。

市部の比較では、前回調査の人口実数は20市中16位、伸び率で3位でしたが、今回は、人口実数で14位、伸び率では1位となっています。

### 人口伸び率上位10市町村

順位	市町村名	人口		伸び率
		平成2年	昭和60年	
1	黒埼町	23,131	21,748	6.4%
2	田上町	12,761	12,083	5.6
3	中之島町	12,133	11,499	5.5
4	湯沢町	9,986	9,491	5.2
5	横越村	9,447	8,992	5.1
6	白根市	35,800	34,235	4.6
7	京ヶ瀬村	7,927	7,587	4.5
8	亀田町	29,977	28,727	4.4
9	月潟村	3,903	3,767	3.6
10	栄町	11,819	11,445	3.3

### 積極的な施策で 市勢の発展に努力

市では、第3次総合計画(昭和61年策定)に基づき「住み、働き、憩う」の都市機能をより充実させ、人口の増加や雇用の拡大のための企業誘致、生活基盤の整備など市勢の発展に努力してきました。

住宅政策としては、北部地域の87畝を宅地開発する「下塩俵ニュータウン計画」を適切な行政指導と民間活力の導入などにより推進しています。また、雇用の拡大のために和泉工業団地、北部工業団地への積極的な企業誘致を展開しました。これらの施策の成果が、今回の調査結果につながってきているものと思われます。

率では、トップが大通の166.9%(1,352人)で、以下小林12.5%(351人)、根岸11.0%(341人)、茨曾根3.9%(78人)と続きます。前回調査では、人口減少地区はありませんでしたが、今回は6地区が減少しています。減少率の高い順から鷺巻4.3%(122人)、新飯田3.4%(72人)、白根2.1%(250人)、白井1.9%(65人)、大郷0.9%(20人)、庄瀬0.8%(28人)となりました。

世帯数の伸び率では、トップが大通171.6%(405戸)で、以下小林20.5%(126戸)、根岸18.5%(123戸)となっています。

### 生活雑排水の水質汚濁に関心高まる

生活雑排水対策啓発モデル事業調査結果報告

### 市政短信

七月下旬から八月下旬にかけて行われた「生活雑排水対策啓発モデル事業」の調査結果が、新津保健所から発表されました。この調査は県の委託を受け、大通南二丁目地区の一部、四十四世帯を対象に行ったもので、河川などの水質汚濁の要因となる台所排水をろ紙と簡易ストレーナーを使用し、浄化状況を調査したものです。また、てんぷら油などの処理や米のとぎ汁の処理などについても、アンケート調査を行いました。

報告書ではまず、河川の汚れなどについては、生活排水が主な原因であることや、その対策が必要であることを、ほとんどの人が認識しているとしています。ろ紙を使用した台所排水の浄化については、水切れが悪く、使いにくいという結果でしたが、ストレーナーについては、河川



水質検査(新津保健所)

汚濁防止のためには、八五%の人が自費購入しても続けて利用したいとしています。

新津保健所で、生活雑排水と浄化槽について事業の実施前と実施後の水質検査を実施した結果では、大きな差は見られませんでした。これは、実施前からこの地区の各家庭は、水質汚濁防止に関心が高く、努力していたものと報告されています。

てんぷら油などの処理については、ほとんどの人が紙に染み込ませたり、固形化して処理しているという結果が出ています。洗剤についても、計量カップで適量を使っているという結果が出ています。

市環境衛生協会では、今回の調査結果を基に、今後の生活雑排水対策を検討していくことにしています。